

樹木だより

アサダの果穂

アサダは、樹皮が灰褐色でねじれており、さらに縦裂した薄片は下から反りかえり、きわめて特徴的な外観を呈している。またアサダは、カバノキ科のアサダ属で、日本には1種のみ産し、北海道から九州まで広く分布している。

秋に、茶褐色の穂がたくさん下垂していた。そこで約50cmの小枝を切り落として、詳しく観察してみた。この枝には、66本の果穂が着いており、果穂あたり平均15個の果包が着いている。



さらに果包の袋の中には、先端に花柱などの一部を有した光沢のあるタネ（堅果）が1つずつ入っていた。したがって、前記の小枝から約1,000粒のタネがとれた。

材を壁やフローリングに用いると、音色の響きがとても良いと教えてくれた人がいた。そこでアサダについて、タネをまいてもう少し詳しく調べることにした。

（道東支場 梶 勝次）